



法曹養成  
プログラムって  
何だ?

# 法曹コースで学んでみよう！



社会の仕組みが以前にも増して複雑になっていく中で、法曹とくに弁護士への社会的ニーズが非常に高まっています。このような状況を踏まえ、北海学園大学法学部は、北海道大学法科大学院と連携して2020年4月から法曹養成プログラムを開設しました。今回は、このプログラムを履修し現在北大法科大学院で日々勉学に励んでいる3名の卒業生からの体験談を対談形式に構成してお伝えします。

## 2つの制度変更

2020年以降、法曹（裁判官・検察官・弁護士）を養成するための制度について大きく2つの変更がありました。1つ目の変更は司法試験受験資格の変更です。2022年以前は法科大学院を修了するかあるいは予備試験（=法科大学院修了者と同等の学識及びその応用能力・法律に関する実務の基礎的素養を有するかどうかを判定する試験）に合格しなければ司法試験を受験することができませんでした。しかし2023年以降は、法科大学院で所定の単位を習得するなど一定の要件を満たした場合には、法科大学院に在学中でも司法試験を受験できるようになりました。もう1つの変更が法曹コース制度の創設です。制度創設に伴い、北海学園大学法学部は、北海道大学法科大学院との間で法曹養成連携協定を締結しました。このプログラムに進んだ学生は、一定の要件を満たすことで北海学園大学法学部を3年間で卒業し（早期卒業）、さらに所定の成績を修めることで北海道大学法科大学院の「法曹養成プログラム5年一貫型教育選抜」を受験することができます。これは対象者に対して書面審査と面接試験によって入学者を選抜するタイプの試験です。この試験に合格すると、北海道大学法科大学院の2年課程に入学することができます。これら2つの変更によって法学部を3年間で卒業し、法科大学院の2年課程に入学して法科大学院2年次の7月に司法試験を受験することが可能になりました。

## 履修自体はそんなに難しくない？

ここからは、実際に北海学園大学法学部の法曹養成プログラムを履修し、現在北海道大学に在学中の奥野昂太さん、樋爪瑠菜さん、横山志桜さんから伺った体験談などを交えながら、法曹プログラムを履修し、法科大学院で学ぶことについてもう少し詳しく見ていただきたいと思います。

—奥野さんは、法曹養成プログラムを履修し、「法曹養成プログラム5年一貫型教育選抜」（特別選抜）に合格して現在北海道大学法科大学院の2年課程に在学中です。この選抜試験を受験するためには、法曹養成プログラムに登録し、履修した全ての科目（ただし卒業要件に参入されない科目を除く）について算出したGPAが2.0以上であることが必要であり、かつ2年課程に入学するためにはGPAが3.3以上必要です。これらの要件を満たすことはかなり大変でしたか。

奥野 普通でした。法科大学院への進学を希望する以前から司法書士になることを考えて勉強していました。特別選抜経由で入学するためには好成績が必要だったので、法曹コースの授業の復習と司法書士試験対策の二本柱で勉強を続けていました。

—横山さん、樋爪さんはいかがでしたか。

横山 法律学科で7法全てを履修するだけだったので全体的ことで言えば特に大変ではなかったです。ただ、刑事訴訟法は本当に辛かったです。また、1科目でも落とすとGPAがどんなに良くても履修の関係上、3年次卒業が不可能になるという制度設計なので、厳しいなと思っていました。この点については、大学側で何か改善をしていただけると嬉しいです。

樋爪 必修科目的履修と一定のGPAの基準を満たすことが要求されるだけなので、大変ではありませんでした。むしろ、法曹コースの履修が大変といううでは法科大学院進学はやめた方が良いと思います。

—お三方ともプログラムを履修すること自体はそ

う大変ではないという感じですけれど、学部生の時に時間的制約がある中で勉強せざるを得なかつたのではないかと思います。アルバイトやサークル活動などと勉強との両立については、何か工夫などはしていらっしゃいましたか。

樋爪 長期休みにアルバイトをしていました。授業期間は、単発のアルバイトくらいしかしていました。サークルは法研究会に所属していましたが、コロナ禍だったのでほとんど活動がありませんでしたから、時間的な余裕はあった方だと思います。

横山 アルバイトばかりの学部時代でしたが、夕方は自分の時間を確保したかったので早朝のアルバイトをしていました。夕方は気が向けば教科書を開いたりレジュメを読み込んだりしていました。

## 法科大学院の受験について

—奥野さんは司法書士試験のための勉強との両立をされていましたし、樋爪さん・横山さんはアルバイトの両立をされていたわけですね。きちんと勉強時間を確保していたからこそ、プログラムの履修を苦に感じなかつたのではないかと思いますが、いつ頃から法科大学院への進学を希望するようになったのですか。また、どのような進路を希望して法科大学院受験を考えましたか。

奥野 司法書士・博士後期課程・検察官を進路として考えていました。法科大学院を受験しようと思ったのは法曹コースができた2020年からです。

横山 大学3年の夏か秋ごろです。友人がインターンシップに参加したり、公務員試験に向けて一生懸命やっているのを見て、私はどんな社会人になりたいかと考えた時、大きな組織の一員としてではなく一人ないし数人で自由に活動する方が自分には向いているのではないかと思うようになりました。法曹三者のうち弁護士は国家権力に抗える力があると思い、社会に対して懷疑的だったこともあって弁護士になることに惹かれて法科大学院進学を考えました。



**樋爪** 大学2年生の時に、法曹コースが開設されたので、その頃から法科大学院への進学を希望するようになりました。また弁護士になることを考えて法科大学院を受験しました。

－みなさん大学入学後に法科大学院への進学を考えたのですね。また、奥野さんと樋爪さんは法曹コースが開設されたことがきっかけになったのですね。ところで北大法科大学院は未修（3年コース）と既習（2年生コース）を開設しています。これから法科大学院に進学しようと思う人たちの中にはどちらに進学すべきか迷っている人も多いのではないかと思いますが、この点についてはどのようにお考えですか。

**樋爪** 私は法曹プログラムを履修した上で、北大法科大学院の未修コースに入学しました。論述の基本ができている、既習の論述試験を受験して合格する力があるのであれば既習コースを選択する方が良いと思います。法曹プログラム履修者向けの特別選抜を受験して既習コースに入学することも可能ですが、通常の既習コース向けの入学試験に合格した人たちと同じレベルの論述力がないと授業についていけず辛い思いをしてしまいます。こうしたことを見越すと、基礎・基本、論述力に自信がない方には未修コースに入学することをおすすめします。

－法科大学院では成績評価や進級要件が厳しいですよね。授業についていけないと単に辛いだけではなくて留年してしまうこともありますよね。

**樋爪** 確かに成績評価や進級要件は厳しいですが、あまり気にしなくても良いと思います。とはいっても、法科大学院で毎日は正直、体力とメンタルが削られて、想像以上に大変です。法曹プログラムの履修については、将来の選択肢が広がるので履修することをお勧めしますが、法科大学院の進学については慎重に考えて欲しいと思います。

－成績評価等の厳しさに加えて、他大学の法科大学院に進学することへの不安のようなものがありましたか。

**横山** 学部時代、友達が片手で数えるくらいしかいなかつたので、友達ができなかつたらどうしようと思っていた。でも、北海道大学法科大学院は少人数制なので、同期の人たちと関わる機会がたくさんあり、スムーズに友達を作ることができました。周囲の人たちがみんな良い人だったのでよかったです。友人関係だけではなく、留年したらどうしようという不安もあります。これについては法科大学院を修了す

るまでについてまわる不安だと思います。この不安を払拭するためには、自分自身が頑張ったと言えるだけ勉強するしかないので簡単な問題に解答できることを確認することで精神を保っています。

**奥野** 私の場合、不安は全くありませんでした。むしろ北大で勉強することに憧れがあった私としては、ワクワクして非常に楽しみでした。

**樋爪** 未修コースに入学しても、周囲は予備試験の短答式に合格している北大法学部出身者ばかりです。また、既習コースはほとんどが北大法学部出身者です。周囲の人たちは優しい人が多く、すぐ仲良くなれるので、孤独・孤立という不安はありません。しかし、自分が周囲と比べて能力不足なのではないかと不安になることがあります。不安感は今でもありますが、定期試験を受けて成績の分布を見て、自分の勉強は間違っていたことを確認すると、少し安心できます。

すか。

**樋爪** 約2ヶ月間に1度のペースで行われる定期試験に向けて、論述対策をします。基本的な論点をおさえ、文言の定義、規範、理由づけ、法の趣旨などを基本書や判例で確認し、覚えていきます。また、授業外で自主的に同じクラスの仲間とゼミを組む「自主ゼミ」で問題を検討したり、情報交換を行ったりしています。これに加えて私は論述の問題集を使ってテスト対策をしました。

－少なくとも横山さん、樋爪さんの体験談からは「ハードな毎日」といった印象を受けるのですが、そんな日々の中でも法科大学院に入って体感した「楽しさ」のような面についても是非伺いたいのです。ハードな毎日の中でも「これは楽しい」「法科大学院に入学してよかった」と思うようなことはありますか。

**奥野** 私は学部時代に司法書士試験の勉強をしていましたが、そのための勉強の際には学べなかったレベルの内容を勉強していることが本当に面白いです。具体的には、条文それぞれが持つ趣旨・意味や由来、各法律の条文の構造、民法でいえば当事者関係や要件事実論など、法律の外枠だけでなく、骨格レベルで学べることが楽しいと感じています。また、「法律ってこんなに緻密に作られていたんだ」と、点と点が繋がる感覚が増えてきており、そこが楽しいです。クラスメイトとの距離が近いので、交流する時間が多く、友人との交流も非常に楽しいです。友人がいるおかげで「勉強頑張ろう」と思えます。

**樋爪** 弁護士の先生の授業後に飲み会があります。そこで、生の弁護士の話が聞けます。気分転換になり楽しいですし、勉強のモチベーションにもなります。

**横山** わからない所だらけで挫けそうになることが多々ありますが、理解した時の快感がたまりません。入学してよかったです、法科大学院に入学するまで同じ目標を目指して頑張っている人を見たことなかったのでライバルが可視化されて「私も頑張ろう」と思えることです。

## どんな法曹を目指しているか

－ハードだけれど楽しい日々の先には法曹としての未来が待っています。どんな法曹を目指しているか教えてください。

**奥野** 法曹としての誇りを忘れず、何より依頼者に寄り添う人間味溢れる法曹になりたい。一般人から見て、法曹は、その職業柄エリートと

## 法科大学院での日々は

－実際の法科大学院での勉強などについてもう少し詳しくお伺いしたいと思います。予習・復習も含め毎日どのように勉強していらっしゃいますか。

**奥野** 7月までは司法書士試験の対策をメインにしていて、法科大学院の授業の予復習は最低限という感じでした。司法書士試験を受験した後は講義の復習を頑張っています。

**横山** 予習がとにかく果てしなくあるので、予習は諦め復習中心の勉強をしています。試験が近いときは軽いパニックを起こしていますが留年したくない一心で頑張っています。

**樋爪** 予復習や勉強の仕方は3年コースの1年目と2年目（既習コースの1年目）とでは異なると思います。未修コースの1年目は、先生からの一方的な講義形式の授業が多いので、予習は不要で復習をメインにする感じです。未修2年目からは、ソクラテスメソッドと言って、先生と学生との間で問答を行う形式の授業がメインになります。この形式の授業に対応するためには予習と復習の両方が必要になりますので、未修1年生の時より負担がかなり増えます。予習では、事前に先生から出された音声授業をWEB上で受けたり、課題として判例を読んだり、答案を作ったりする必要があります。こうした予習の負担がかなり重いので、復習することが大変になります。

－復習は具体的にどのような感じで行なっていますか。

認知されることが多いイメージがあり、接しにくいとか、雲の上の存在のようなイメージがあると思います。私は何より一般市民との交流を大事にし、依頼者と心を通わせ、信頼関係を第一優先とし、依頼者にとって、絶対的な味方であり、頼れる用心棒として、人情味溢れる法曹になりたいです。

**横山** 弁護士として離婚や養育費の問題や会社の危機管理法務等に携わりたいと考えています。

**樋爪** 私は、地域の教育現場に根ざした、児童問題を扱う弁護士を目指したいと考えています。児童問題に関する教育や、法的相談、また、問題が発生した場合は、弁護士の立場から解決に導き、必要に応じて法令に基づく対応を行い、子どもたちに安心と安全を与えられる環境作りをすることで、犯罪行為に苦しむ児童を少しでも多く救いたいと考えております。

## 後輩たちへのアドバイス

最後に。法曹プログラムの履修や法科大学院への進学を考えている後輩たち向けにアドバイスや励ましの言葉など何か一言お願いします。

**奥野** まだ法科大学院に入ったばかりなので偉そうなことは言えないですが、とにかく、「己を信じぬくこと」が大切だと思います。ロースクールに入学する為の勉強は大変ですが、非常に面白く、生活していく上で役に立つ、所謂「使える知識」としての側面を有しており、とても有益です。たしかに、勉強を続けることは大変な

ことかもしれないですし、時に心が折れる日もあるかもしれない。しかし、そんな時には法曹を志した頃の自分を思い返し、自分の将来像を描きながらコツコツと進めていけば、確実に法科大学院に合格すると思います。私は、勉強を苦行とは思いたくないタイプ（嫌いなことはやりたくない）なので、嫌いなことはそもそもやりません。むしろ、とても楽しい勉強ができる幸せだなと思っています。まあ、忙しいという点では大変なのかもしれないですが、自分で考えて自分で決めたことなら、途中で投げ出すようなことは無いと思いますから、そういう意味でも己を信じて突き進んでください。

**横山** 少しでも将来の選択肢に法曹を考えているなら法曹プログラムに申し込んでみるのも良いと思います。履修しているうちに法曹でない別の道に進むことを決めてても7法を履修することはきっと公務員試験や民間企業に行っても生きるのではないかと思います。法科大学院へ進学を考えている方は学部の勉強を今、一生懸命やれば進学後かなり楽になると思うので頑張ってください。また、論理的に文章を書くことを意識して期末試験の答案が書ければ、法科大学院の学費免除も夢ではないと思います。

**樋爪** 法曹プログラムを履修するか迷うのであれば将来の選択肢が広がるので履修してみることをお勧めします。また、法科大学院に進学する前提として、学部の授業をしっかり受けた方が良いと思います。予備校を利用するのも良いかもしれません、「なぜそのような規範が導き出されるのか」といった理由づけの部分が予備校のテキストには書かれていません。むしろ、北海学園の先生方が授業で指定したもので十分なので、基本書と判例を中心に勉強した方が良いと思います。このような勉強は法科大学院に入学してからも非常に役立ちます。法科大学院での生活は大変ですが、進学して良かったと思っています。お互い大変かと思いますが、頑張りましょう！

–法科大学院では、ハードではあるけれど楽しさや、やり甲斐を感じられる日々が待っているといった感じがひしひしと伝わってきました。みなさんが司法試験に合格して法曹として活躍されている姿を見てくださるであろうと確信しています。お忙しい中、後輩たちのために率直に色々なお話を聞かせていただきありがとうございました。

(構成：四ッ谷有喜)



7月1日に行われた  
北海道大学法科大学院  
説明会の様子

## 法科大学院説明会

2023年7月1日、北海道大学法科大学院から米田雅宏先生と横路俊一先生が来学され、本学で北海道大学法科大学院の進学説明会が開催されました。

当日は、法曹の仕事内容についての説明の後、北海道大学法科大学院の教育内容・修学支援体制、入試制度、法科大学院生の実際の生活等についての説明が行われました。教育内容については、札幌弁護士会からの全面的なバックアップを得ながら充実した教育プログラムが展開されていることや、弁護士事務所等に学生が赴いて実際の実務に携わる実習型の授業が実施されていることなどを紹介されました。また、入試制度については、法曹養成プログラムを履修し所定の要件を満たした者を対象とした特別入試制度に関する説明だけではなく、制度全体とともに、併願可能性も含めた詳細な説明が行われました。

さらに、質疑応答の時間には当日来場している本学の学生から、「法曹養成プログラムを履修し早期卒業をして2年コースに進学した学生はカリキュラムについていているのか」「授業料の免除制度はどのようなものがあるか」「法



科大学院に入学後、司法試験を受験しないという選択肢も取りうるか」「アルバイトしながら法科大学院で学生生活を送ることは可能か」等の質問があり、それぞれに対して米田先生・横路先生が丁寧に回答してくださいました。進

路に関する説明に関連して、「北大に限定してということではないが、法科大学院修了生へのニーズは高く、むしろ供給が追いついていないというのが最近の情勢である」との説明もありました。

北海道大学法科大学院は、道内唯一の法科大学院であり、北海学園大学は同大学院との間で法曹養成連携協定を締結し、この協定に基づき法曹養成プログラムを開設しています。

法曹養成プログラム履修者だけではなく、広く同大学院への進学を検討している学生への情報提供の機会を増やすために、今後も、本学において北海道大学法科大学院の説明会を開催する予定です。

(構成：四ッ谷有喜)

# 法学部アカデミック・スキルズの授業に、栗山英樹特任教授をお招きしました。

2023年6月17日、3号館4階の42番教室で行われた法学部のアカデミック・スキルズの授業に、北海学園特任教授である栗山英樹先生をお招きし、お話しいただきました。ご自身の少年時代や、高校・大学への進学時、その後のプロ野球選手時代のご経験をもとに、現役学生達に熱いメッセージを送ってくださいました。北海道日本ハムファイターズやWBC日本代表チームの監督を務めた時の貴重なエピソードも次々飛び出し、教室に詰めかけた約300人の法学部生達も、熱心に耳を傾けていました。



## うまくいかない方がチャンスになる

今年3月の劇的なWBC優勝の興奮がいまだ冷めやらぬ中、教壇に立った栗山先生でしたが、開口一番、「野球の面白い話と思って来られたかもしれません、今日は授業なのでめっちゃ難しい話をします!」とユーモアたっぷりに笑顔で一言。

「人間学——人は一人では生きていけない」をテーマにした授業は、「昔の自分を知っている人達からは、お前よく監督なんてやれたよね、と言われます」という意外な言葉から始まりました。その後、スクリーンにスライドを投影してお話をしつつ、時にマイクを持ったまま学生達の中に飛び込み、「憧れている人物は誰ですか?」、「小学生の時の将来の夢は何でしたか?」と、栗山先生自ら学生にインタビューするなど、教室を縦横に使ってのダイナミックな授業を開く。

「もしかしたら、他の大学へ行きたかったけどここに来た人もいるかもしれない。でも、うまくいかない方がチャンスになることは、世の中たくさんあるからね」とおっしゃる栗山先生自身、これまでの野球人生は決して平坦ではなかったといいます。

小学時代にやっていた野球を離れ、中学時代はバレー部で活躍。しかし、膝に水が溜まる病気となり「生涯、スポーツはできません」と医者に告げられ、バレーを断念して野球に戻ったそうです。「膝の故障がなければ野球をやっていなかつた」と言う栗山先生は、その後、中高時代は野球に専念することになりました。

## 進学の悩み・決断

野球の強豪校への進学を夢見ていたものの、父親から文武両道の大切さを説かれて地元の高校へ。そこで野球に打ち込むものの、甲子園出場の夢は果たせませんでした。予選で負けるたびに、「自分で決めた高校じゃないから」と「逃げ道を作っていた」と言う栗山先生。六大学野球に憧れながらも、やはり父の勧めもあり、また野球で勝負する自身も覚悟もなく、大学は教員養成大学へ進学したそうです。

大学では野球部に所属。もしトップレベルの野球部でやっていたなら自分の力がわかつてしまつたが、強豪校ではなかったため、いい意味で「勘違いできた」という栗山先生は、卒業を前にしてプロ野球選手への夢を再燃させます。「これまで、やらない後悔ばかりして、やってみて失敗したという経験がなかった」と考えた栗山先生は、野球は今しかできないと、社会人野球やプロ野球のテストを受けまくり、ドラフト外選手として、東京ヤクルトスワローズに「ひつかかった」とのこと。

プロ野球選手の成長の話では、「うまくいくている時は、うまくならない」という話が印象的でした。人間はできることが多いとそれ以上は努力しない、レベルが上がらない。悔しい思いが進化を促す。「だから今、うまくいっていないんだったらチャンスだと思ってください」と、栗山先生は学生達にメッセージを送りました。

## 現役時代の試練と支えてくれた人々

晴れてプロ入りした栗山先生ですが、その後も試練の連続でした。

ドラフト一位で入団した同期は、一年目で華々しい一軍の開幕投手。屈辱以上の思いを抱えた栗山先生に、当時の二軍監督は「人と比べるな」と声をかけたといいます。

人が苦しむ原因の9割方は、他人との比較。どんなに下手くそでも、自分の練習に付き合ってくれたその二軍監督には、涙が出るほど感謝

しているとのことでした。

やっと試合に出られるようになり、一軍に定着した栗山先生ですが、今度は持病に悩まされることになります。やがて野球ができる状況ではなくなり、病院へ。その時救ってくれたのは母親だったといいます。代わってあげたいと涙を流す母を悲しませないため、「絶対に治してやる」と誓い、それからは野球ができるだけでも幸せに感じるようになり、自分の野球観も変化。結果も出るようになったそうです。

その後、30歳の若さで引退することになりますが、様々な場面で周囲の人々にも助けられた現役生活だったとのことです。

「SNSでの批判などを気にする選手もいるが、面と向かって言えないような言葉など相手にする必要はない。ただ、自分でうまくいかなくて困っている時、何とかしようと思っている時は、誰よりも努力できたり頑張れたりするし、チャンスがある」。



「こんな選手だった自分でさえも、たまたまファイターズの監督というチャンスをもらって10年やらせてもらい、WBCにも行けた。チャンスや、自分がやりたいことのヒントはいろんなところに、みんなの周りにもたくさん落ちている。自分は、絶対に自分から放棄するということはしたくなかっただけ。そうすることができたのは、周りにいてくれた人々の影響もある」と言う栗山先生は、「だから、みんなも頑張れるよね」と、学生達にエールを送りました。

その後、ファイターズ時代やWBCの裏話、大谷翔平選手との秘蔵エピソードも披露するなど大いに盛り上がり、予定時間をオーバーして白熱の延長戦に突入しました。

最後に、「機会があれば今度はみんなと対話したいな~。意見をぶつけあいたい」と締めくくった栗山先生。第二弾、学生達との交流戦の開幕が、今から非常に楽しみです。

## 新学部長からのご挨拶

館田晶子



何の因果かこのたび学部長に就任いたしました。どうやら私は、本学法医学部で初の女性学部長（大学としては二人目）とのこと。21世紀に入って20年以上経ち、前世紀から言われてきた初の女性ナントカというのもそろそろ終わりではないかと思いきや、それでもなさそうなのが日本の現状です。6月に発表された2023年GGI（ジェンダーギャップ指数）ランキングで日本は146ヶ国中125位、過去最低というこの結果に天を仰ぎ見る向きも少なくないでしょう。

事ほど左様に、世の中には古今の社会問題が現在進行形で溢れしており、そのそれぞれが、法学部の学びの対象となりえます。とはいえ、大学の授業はそこにたどり着く前の基礎的・理論的なものが多く、タイプ（タイム・パフォーマンス）に敏感と言われるコロナ後の学生にとっては迂遠でたくつなものに感じられることがあるかもしれません。学問は学ぶことそれ自体に喜びがある、というのは一つの真理ではありますが、それは学ぶことの楽しさをすでに知っている者の謂でありましょう。とりわけ高校までの「勉強」に慣れてきた新入生には、その先にある「学問」の楽しさと意義を伝えるところから始めなければなりません。

話を戻しましょう。あらゆる社会現象が法学の対象となるという話です。日常も含め、ありとあらゆる疑問や困難や違和感は法律や政治の目を通して見ることが可能です。冤罪事件はなぜ生じるのか。厳罰化で犯罪は減るのか。企業不祥事をなくすためにはどうしたらよいのか。少子化を止める方法はあるのか。AIの普及は世の中をどう変えるのか。なぜ大学に高い学費を払わなくてはならないのか。なぜバイト先はなかなか辞めさせてくれないのか。差別をなくす方法はあるのか。なぜ法学部にはこれまで女性学部長がいなかったのか。女性の管理職比率に数値目標を設定する必要はあるのだろうか。

法学の目を通して見るというのは、問題を個人だけのものでなく社会システムのそれとして見るということでもあります。学生が発する上記のような疑問は、教員だって唯一の答えを持っているわけではありません。ただ、学生よりも少し長い人生経験を持ち考える訓練を経ている分だけ、その時々の最適解を導くための方法と材料をある程度持っている、というだけの話です。

大学の重要な役割のひとつは、学生が気持ちよく学べるような環境を整えることです。学問に正解がないように大学や学部のあり方にも正解はありませんが、教職員ともども、日々学生と接する中から法学部の最適解を探していくたいと思っています。

# つながると 楽しい



## 民法は日常生活に潜んでる?

私が研究対象としている法律は「民法」です。民法は、大雑把に言えば人と人との間の関係を「財産」の側面と「家族」の側面から規律する法律です。こんな風に説明するとなんだか堅苦しく聞こえますが、日常生活のさまざまな場面が民法の適用対象です。おおよそ意識している人はいないと思いますが、「コンビニでおにぎりを買う」という行為は、コンビニとの間の売買契約であり、契約は民法の適用対象です。また、買ったおにぎりは、「私の物」だから、すぐに食べてもいいし誰かにあげてもいいわけですが、これらは当たり前のことではなく、「私の物」とはどういうことなのかを民法が規定しているからこそ、このようなことが可能になるのです。ちょっと大袈裟かもしれないですが、民法は日常生活に潜んでいる。私はそんな風に感じながら日々を過ごしています。普段生活していても、何気ない行動について「これは民法的に考えるとどうなるのだろうか」とふと考えることがあります。何も考えずに普通に繰り返し行なっていた行動を既存の理論を前提にして分析してみると、説明が難しかったりすることもあります。普段の生活の中にも研究の対象になるような事象を見つけることができるのですが、民法の面白いところの一つだと私は感じています。

## さまざまつながりに目を向ける

民法は条文数が非常に多く、また適用対象も多岐にわたります。大学院に進学して研究者の卵としての勉強を始めた当初は、自分が専門としようとしている特定の分野について勉強するのに精一杯でしたが、徐々にそれ以外の分野についても勉強して、一見異なるように見える分野と自分の専門分野とのつながりや関係性を知ることで更に勉強が楽しくなっていきました。

# 四ツ谷 有喜

た。また、大学院時代には弁護士事務所でパラーガルのような仕事をする機会も得ました。それぞれの案件は、当然のことながら教科書の設例のように整理されているわけではありませんし、既存の判例や理論を使ってすんなりと結論が出るようなものばかりではありません。この時には、現実と理論とをどのようにつなげていくか、理論と現実はどのように乖離しているかを考える良いきっかけになりました。

こうした経験を経て教員になった後は、同僚に恵まれて他の分野の教員とも親しくなりました。教員になった時期と法科大学院制度創設に関する議論が活発になった時期とが一致したこともあり、法科大学院のカリキュラムや教授方法について他の教員と日々議論をする必要にも迫られました。また、こうした議論を学内だけではなく学外の先生方と行う機会も多く得ました。こうしたことにより時間を割かざるを得なかった分、時には授業準備時間を取りことさえ困難な日々を過ごした時期もありました。辛かった面もありますが、他分野の先生との真剣な議論によって、自分の研究分野との違いやつながりをまた別角度から考える非常に良い機会になりました。

## 茶道と法学は似ている?

通算して15年以上、茶道を習っています。茶道にはお茶を点てる際の決まり事があります

し、お茶をいただく側にも作法があります。こうした作法を覚えるのが茶道だと思われがちですが、そうではありません。ただ所作を覚えるだけではなく「なぜその所作をこのタイミングでするのか」を知ったり考えたりする必要があります。また、道具や花に関する知識も必要です。例えば、お茶会に呼ばれてお茶を飲むにしても、こうした知識があるかどうかで楽しみ方も変わってきます。それぞれの知識や考えたことがつながってこそお茶会を楽しむことができます。このように分析してみると、他の分野とのつながりを見出すことで、わかることがあったり楽しめることができます。こうした側面は、なんとなく法律学の勉強と似ているなどつくづく感じます。

つながるまで色々勉強しないと楽しめないからそんなことは面倒臭いと思うか、それとも色々なことについて沢山勉強しなければならないからこそ楽しいと思うか。感じ方は人それぞれだと思いますが、大学教員の職に就いて約20年以上、茶道も15年以上続けていて未だに飽きずにむしろ新いつながりを見つけてワクワクしていますので、明らかに私は後者のタイプなのだろうと自己分析しています。

若い頃に客員教授として1ヶ月間を過ごしたカナダのアルバータ大学でお世話になった先生が、別れ際に私に送ってくれた言葉は "Don't try to be teacher, try to be coordinator" でした。「つながりを見つける楽しさ」を味わってもらうためのコーディネーターのように学生の皆さんに接していくならと願っています。

(法学部教授：民法担当)



はばた わたる  
**福田 浩 さん**  
(司法書士)

——本日ご紹介するのは、司法書士の福田浩さんです。よろしくお願ひします。

よろしくお願ひします。

——現在のお仕事はどのようなものでしょうか?  
また、そこにいたるまでの経緯は?

司法書士として自分の事務所を構え、働いています。昨年司法書士試験に合格して、研修後すぐに独立しました。こうしたパターンは少

数かと思いますが、前職で営業経験もありましたし、自分の裁量で仕事ができるところを魅力に感じて決断しました。司法書士という仕事は公益性が求められるので、仕事を頑張るということが社会のためにもなっていきます。単純に利益を追求するだけではないというところにも、この仕事にやりがいを感じています。

学部を卒業してからは大学院の修士課程に進学し、そこでは憲法を専門に研究をしていました。大学院での過ごし方は人それぞれですが、考え方や文章を読む力・書く力などの汎用性のあるスキルを身につけられたかなと思います。修士課程修了後は不動産業界に就職しました。不動産業界での営業の経験が今の仕事にも役立っていますし、振り返ると色々とつながっているように感じます。

——学生時代にはどういった活動をされていましたか?

学生時代は、法律学が好きで専門科目の勉強をしていたのと同時に、ボランティア・サークルに4年間所属し活動していました。サークルでは、学生がアイディアを出して企画し、外部の人々を交えて企画を実施してきました。小学生を引率してキャンプに連れて行ったり、ごみ

拾いをしたり…。その縁で、学部生ながらに小学校の評議委員も務めることになりました。これはなかなか他ではできない経験だったと思います。何かやれば何かにつながる、ということを実感しました。自分のやりたいことをやって、学生生活をとても楽しんでいたと思います。

——「何かやれば何かにつながる」という言葉には重みがありますね。後輩へのメッセージをいただけますか?

将来のことを不安に思ったり悩んだりすることもあると思うんです。でも、お気楽でもいいのかな、と。好きなことを見つけて、頑張りたいと思ったことを一生懸命頑張っていると、それを見てくれる人はいるし最終的に自分に返ってくると、経験上思っています。後ろ向きになってしまいよりも、楽しみながらやれることを頑張っていたらちゃんと評価されるんじゃないでしょうか。

——自分が楽しめることが大事ですね。どうもありがとうございました!

《次号に続く》  
(構成: 岩坂将充)

## 新任教員のご紹介



四ツ谷有喜 先生

2012年に北海学園大学に着任し、これまで法学部で授業を担当しておりましたが、今年度から正式に法学部のメンバーになりました。担当は民法です。正式なスタッフとして皆さんと勉強できることをとても嬉しく思っています。よろしくお願ひします。

北海道帯広柏葉高校卒業。北海道大学大学院法学院研究科博士後期課程単位取得満期退学。新潟大学法学部、同大学大学院実務法学研究科准教授を経て現職。



佐藤 ケイト 先生

こんにちは。グローバルセミナーI~IV(4日間の英語キャンプ、カナダレスブリッジ大留学支援、長期留学)を担当しています。キャンプに参加するために必要なのは、挑戦する意欲だけです。キャンプへの参加を是非ご検討ください。ご応募お待ちしています。

イギリス・レスター大学修士課程教育学部教育リーダーシップ学専攻修了。室蘭工業大学、駒澤大学苫小牧短期大学非常勤講師、イギリス・セントラル・スクール・オブ・イングリッシュ語学校、セントジайлズ語学校教員、立命館慶祥高等学校、北海道札幌国際情報高等学校非常勤講師等を経て、キトビア英語学校を創立(校長)。その後、札幌学院大学 英語英米文学科、北海道科学大学全学共通教育部常勤英語講師・准教授を経て、現職。